

# 第3次安来市総合計画策定支援業務

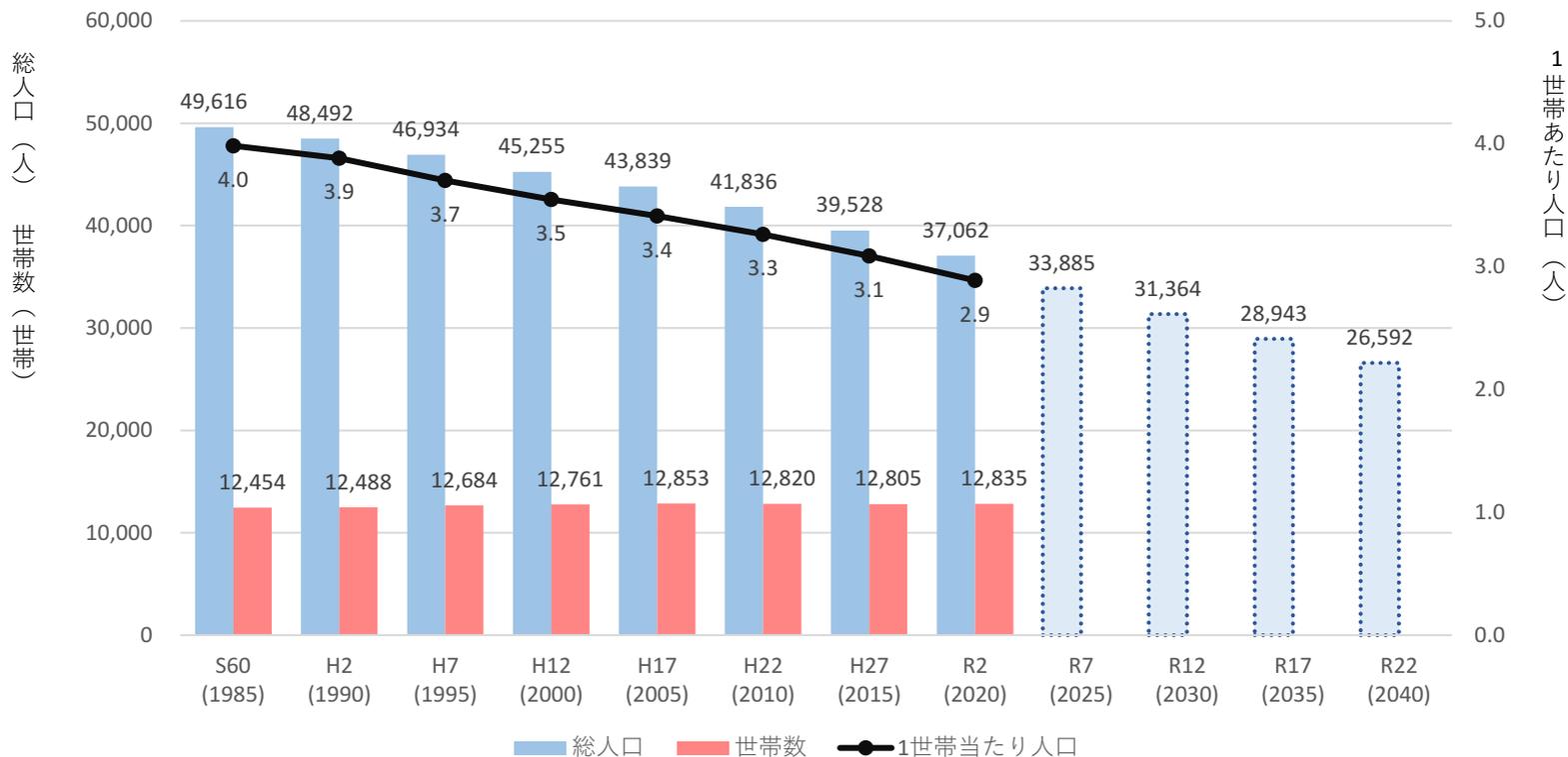
## 安来市の現状の整理・分析

2024年11月22日

# (1) 人口

## ①人口・世帯数の動向

- 2020年の安来市の人口は37,062人であり、10年前の2010年に比べ、△4,774人（△11.4%）減少。
- 世帯数はこの10年間で12,820世帯から12,835世帯となり、15世帯（0.1%）増加。
- 令和2年国勢調査をもとに国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に発表した資料によると、今後も人口減少は続き、令和22年には26,592人と推計される。→2020年に比べ約△10,470人（△28.2%）減少。

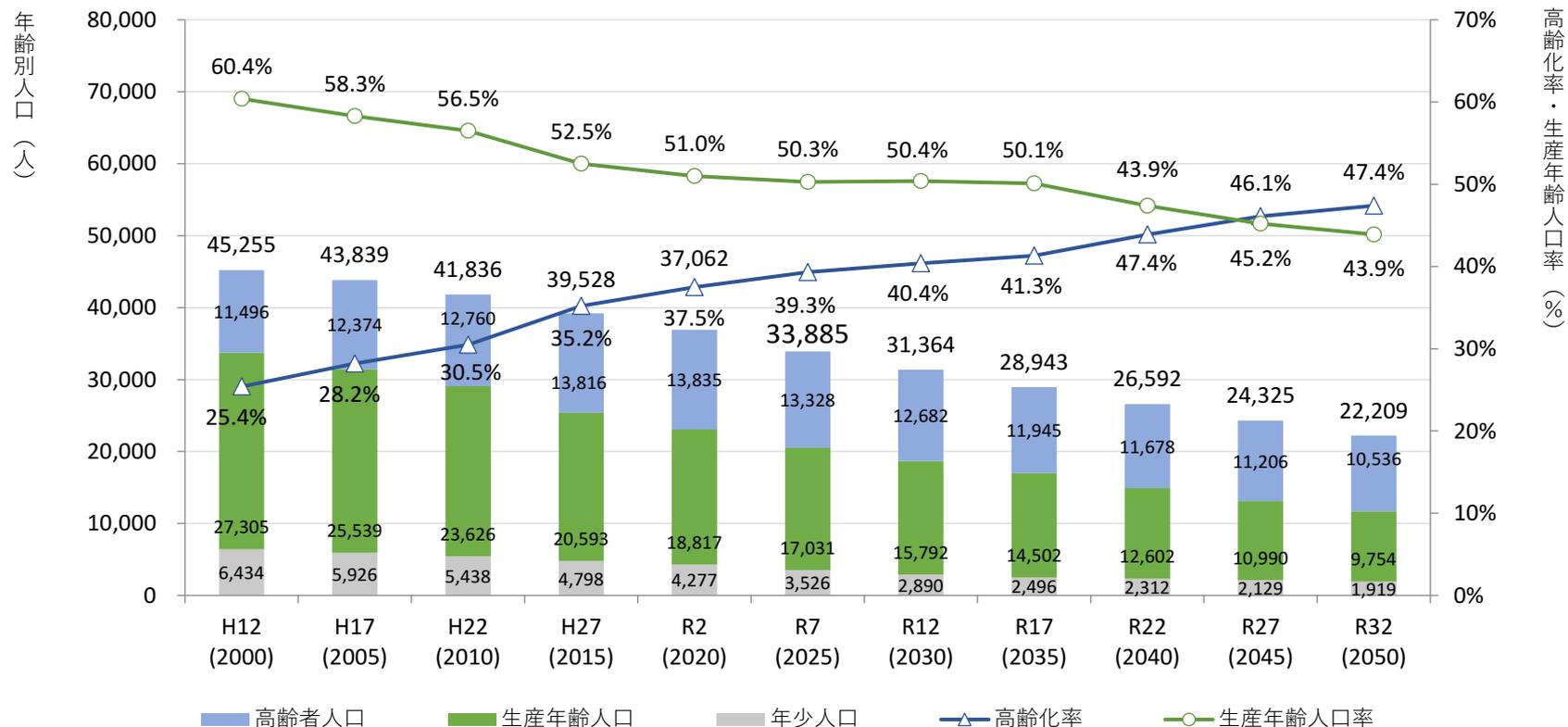


(資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所資料)

# 1. 安来市の現状 計画策定のための基礎調査

## ②年齢別人口構成

- 年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が減少で推移する一方、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向であったが、2020年を境に減少へ転じて推移している。
- 2000年には高齢者人口一人を支える生産年齢人口は約2.4人であったが、2020年には、高齢者人口一人を約1.4人の生産年齢人口で支える社会構造となっている。

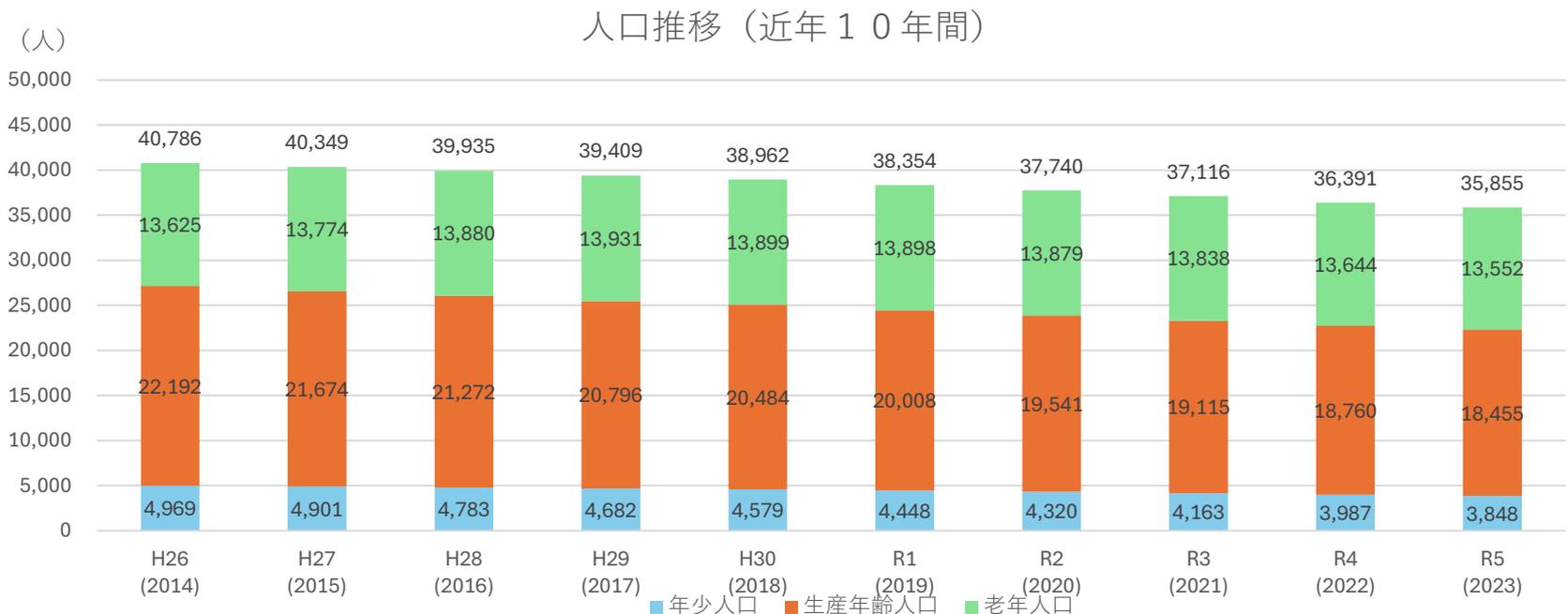


(資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所資料)

### ③住民基本台帳の人口推移（ここ10年間）

- 2023年の安来市の人口は35,855人であり、10年前の2014年に比べ、△4,931人（△12.1%）減少。  
（国勢調査の10年間よりさらに人口減少が加速している）
- 特に年少人口の減少率が高い。高齢者は増加傾向にあったが、減少に転じている。

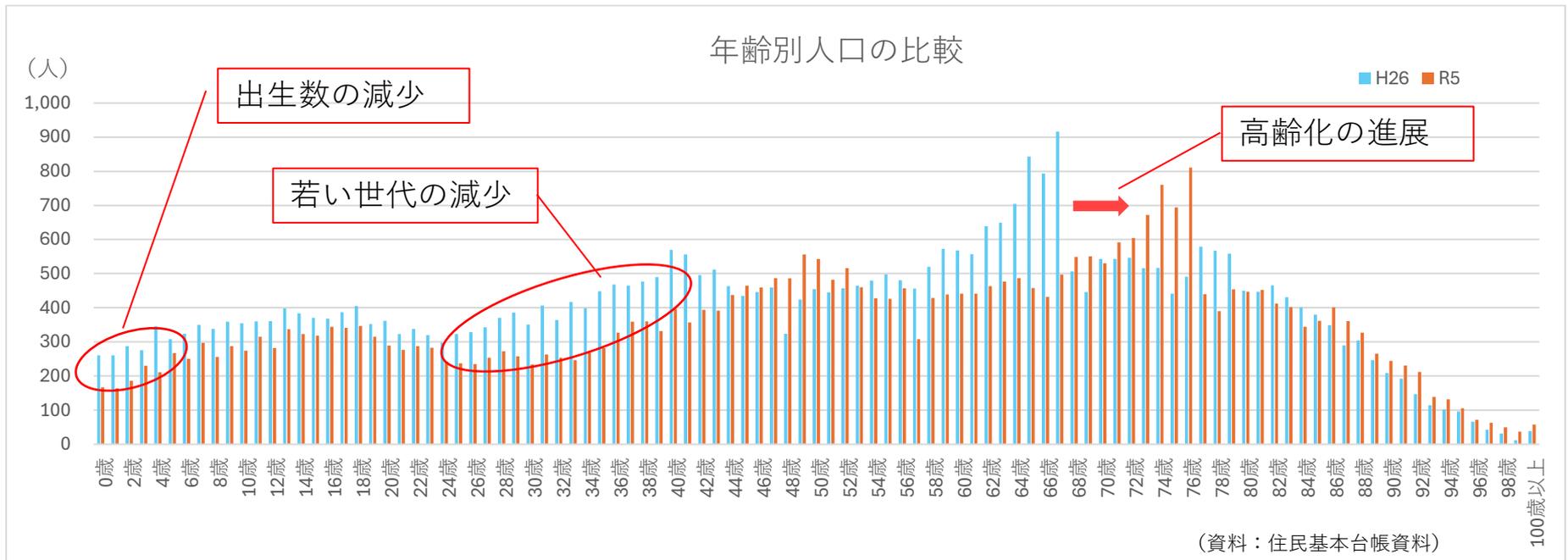
	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	増減	減少率
年少人口	4,969	4,901	4,783	4,682	4,579	4,448	4,320	4,163	3,987	3,848	-1,121	-22.6%
生産年齢人口	22,192	21,674	21,272	20,796	20,484	20,008	19,541	19,115	18,760	18,455	-3,737	-16.8%
老年人口	13,625	13,774	13,880	13,931	13,899	13,898	13,879	13,838	13,644	13,552	-73	-0.5%
合計	40,786	40,349	39,935	39,409	38,962	38,354	37,740	37,116	36,391	35,855	-4,931	-12.1%



（資料：住民基本台帳資料）

## ④住民基本台帳の年齢別人口の比較

- 0歳児をはじめとする低年齢人口が減少した。（出生数の減少がつづいている）
- 20～40代の人口が大幅に減少した。  
（子育て世代の転入を増やしていかないと年少人口の維持や生産力の維持は困難な状況になる可能性がある）
- 団塊の世代が高齢化した。今後当分の間は後期高齢者が増加していくが、減少していく。



## ⑤住民基本台帳の地域別人口（全体）の比較

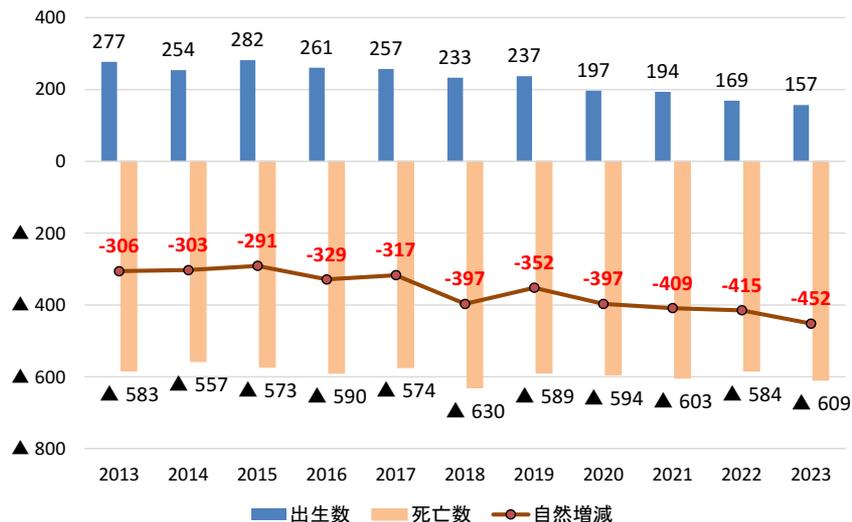
- 地域別では、比田、山佐、布部、井尻、赤屋で減少率が20%を超えている
- 島田はほぼ現状維持で、安来、赤江でも減少率は8%程度で減少率は低い値になっている

地域別	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	増減	減少率
安来	11,016	10,944	10,919	10,854	10,840	10,724	10,620	10,423	10,280	10,138	-878	-8.0%
赤江	4,169	4,186	4,175	4,145	4,111	4,093	4,049	3,992	3,896	3,852	-317	-7.6%
荒島	3,912	3,872	3,828	3,776	3,737	3,673	3,608	3,568	3,540	3,494	-418	-10.7%
飯梨	1,549	1,509	1,477	1,442	1,398	1,360	1,338	1,308	1,279	1,268	-281	-18.1%
能義	1,508	1,494	1,486	1,435	1,422	1,405	1,397	1,359	1,303	1,270	-238	-15.8%
大塚	1,514	1,502	1,459	1,431	1,404	1,382	1,357	1,329	1,285	1,235	-279	-18.4%
宇賀荘	1,794	1,742	1,717	1,705	1,672	1,628	1,601	1,562	1,533	1,504	-290	-16.2%
島田	2,875	2,890	2,898	2,888	2,864	2,822	2,810	2,828	2,808	2,841	-34	-1.2%
広瀬	4,558	4,473	4,405	4,338	4,285	4,207	4,128	4,072	3,958	3,894	-664	-14.6%
比田	1,184	1,153	1,115	1,078	1,053	1,023	1,004	980	938	918	-266	-22.5%
山佐	661	640	630	613	588	561	541	521	504	481	-180	-27.2%
布部	1,219	1,195	1,167	1,129	1,079	1,041	981	957	919	879	-340	-27.9%
安田	1,608	1,592	1,552	1,524	1,512	1,497	1,474	1,453	1,420	1,407	-201	-12.5%
母里	1,493	1,467	1,452	1,433	1,437	1,429	1,377	1,358	1,367	1,338	-155	-10.4%
井尻	939	925	907	876	838	805	771	747	722	710	-229	-24.4%
赤屋	787	765	748	742	722	704	684	659	639	626	-161	-20.5%
合計	40,786	40,349	39,935	39,409	38,962	38,354	37,740	37,116	36,391	35,855	-4,931	-12.1%

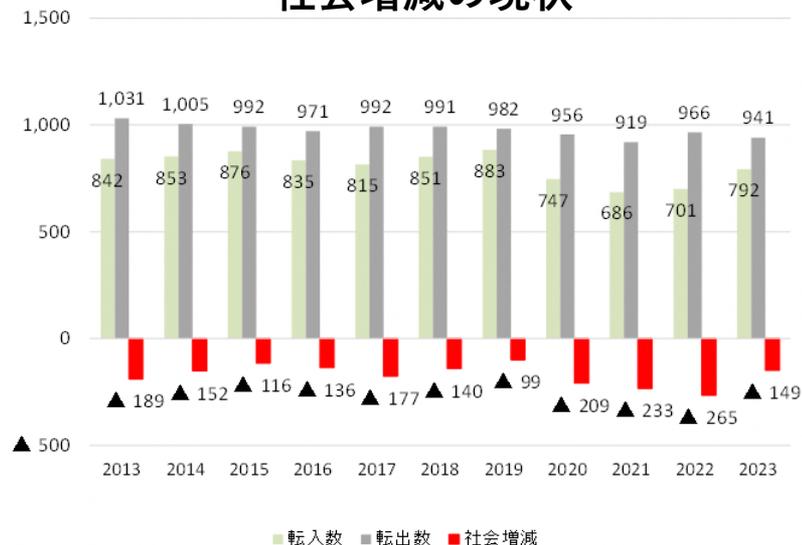
(資料：住民基本台帳資料 12月末)

## ⑥人口減少の要因

### 自然増減の現状



### 社会増減の現状

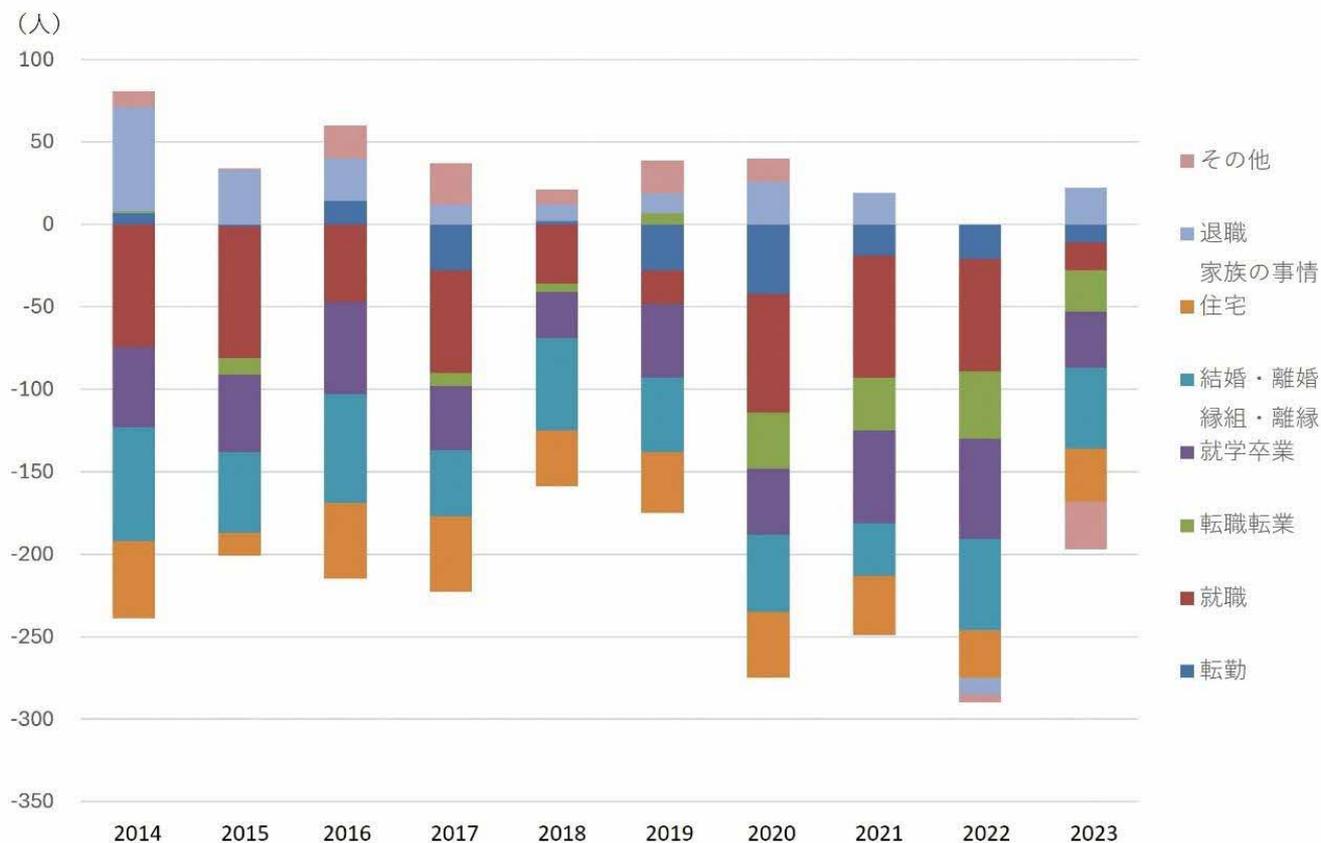


### 島根県内市町村の合計特殊出生率



## 転出・転入の理由

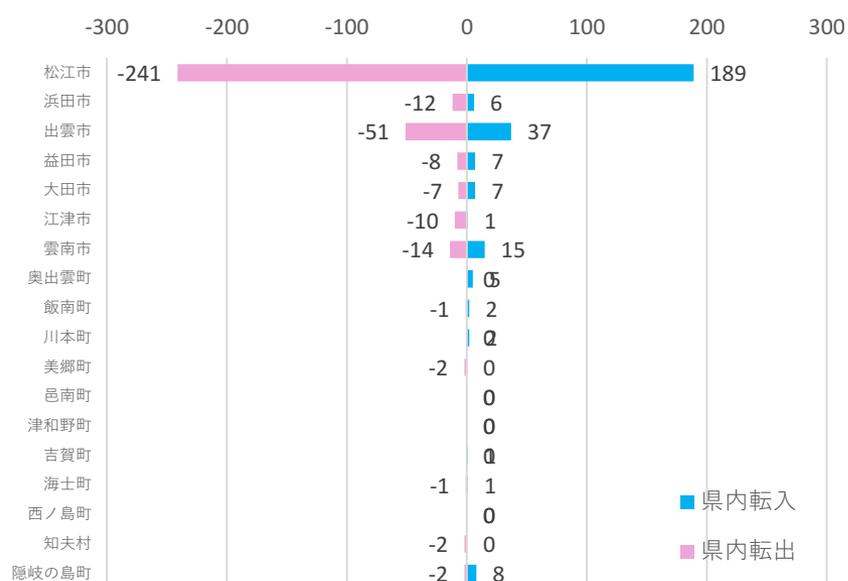
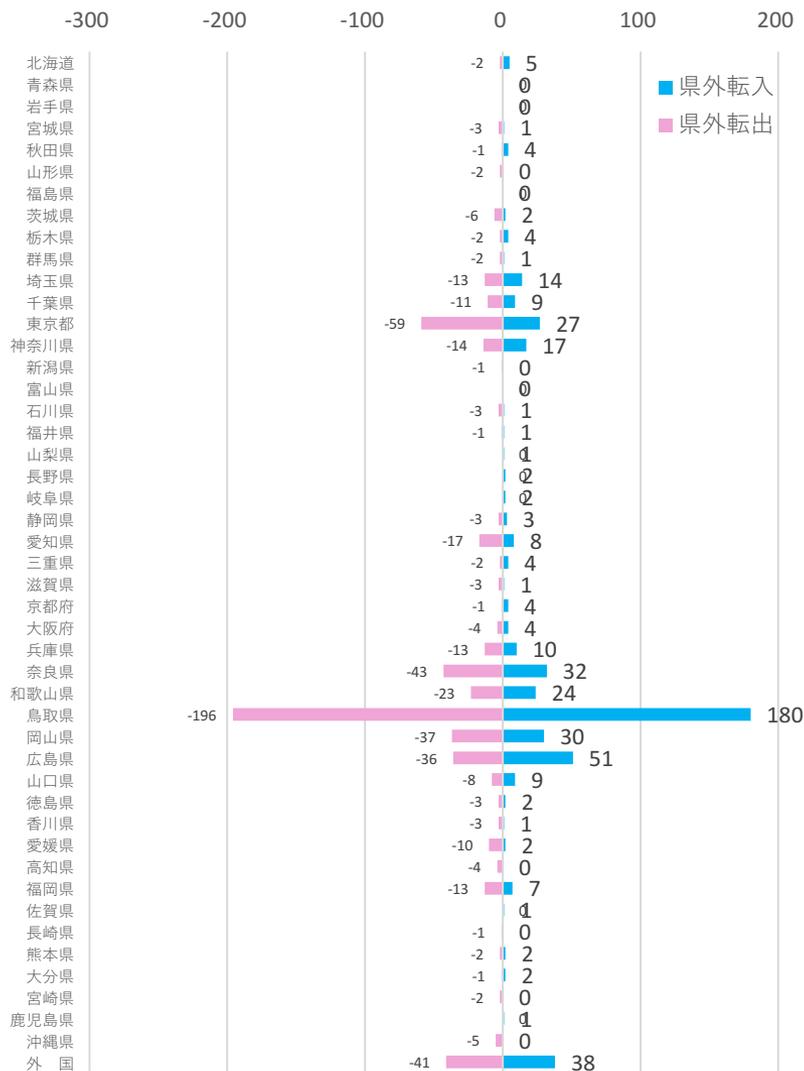
- 転出超過が大きい移動理由としては、就職、就学・卒業、結婚・離婚・縁組・離縁、住宅などが多くなっている。
- 転入超過では、退職、家族の事情が多くなっている（高齢者等のUIターン）。



(資料：しまね統計データベース市町村・都道府県間移動者数(年報))

# 1. 安来市の現状 計画策定のための基礎調査

## 転出・転入の移動地状況



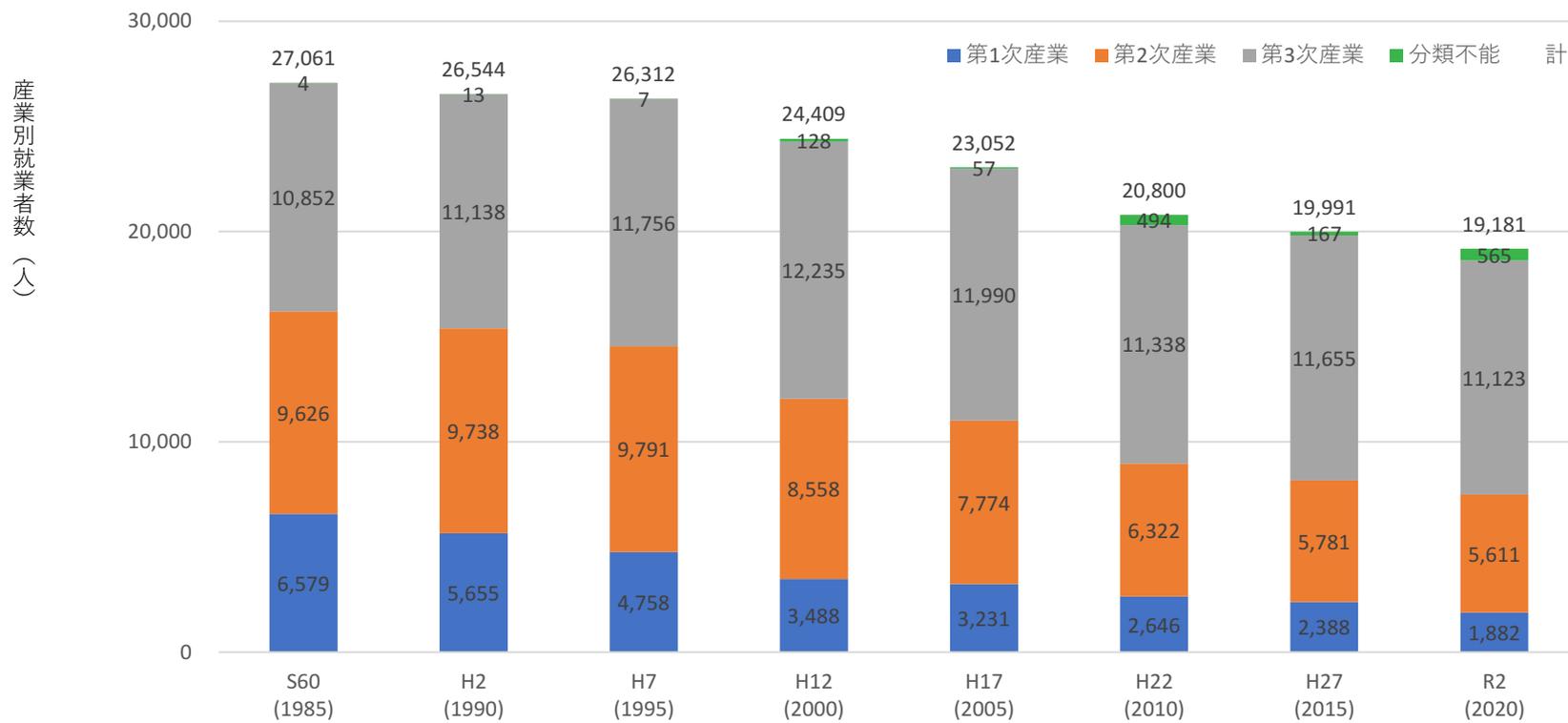
- 2023年における県外移動の地方別内訳では、鳥取県からの転入者が180人と最も多く、次いで広島県（51人）、外国（38人）となっている。
- 県内移動では、松江市への転出者が241人となり転出超過となっており、県内全体の社会増減としては70人の社会減であった。

（資料：しまね統計データベース市町村・都道府県間移動者数（年報））

## (2) 経済・産業

### ① 産業概要

- 就業者数は1985年をピークに年々減少しており、令和2年度国勢調査によると、就業者人口は19,181人となっており、安来市の総人口（37,062人）に対し、約51.8%の住民が就業している。
- 産業別にみると第3次産業が最も多く、令和2年国勢調査では全就業者の約58.0%にあたる11,123人となっている。

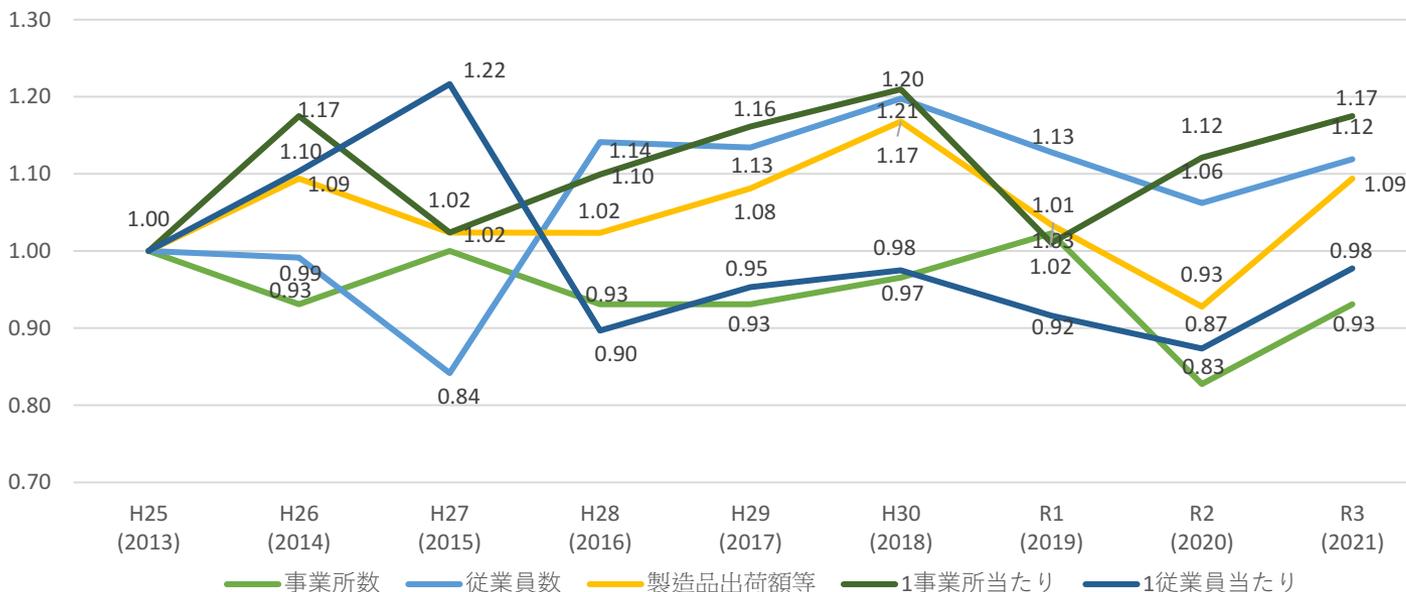


(資料：国勢調査)

# 1. 安来市の現状 計画策定のための基礎調査

## ②工業

- 令和3年での事業所数は81事業所、従業者数は5,617人、製造品出荷額等は約1,788億円となっている。
- 2013年と比較すると、事業所数、従業者数ともに増加減少をしつつも近い数値になっている。製造品出荷額等は増加し、事業所当たり・従業者当たりの製造品出荷額等も増加している。

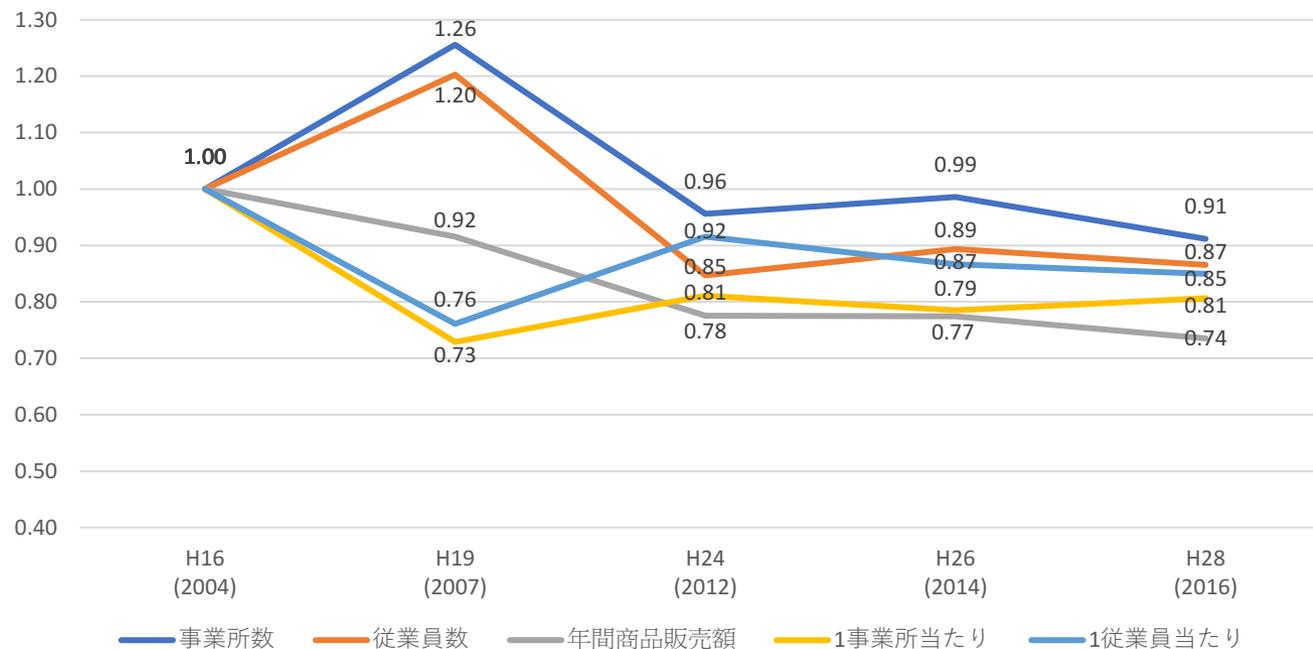


	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
事業所数	1.00	0.93	1.00	0.93	0.93	0.97	1.02	0.83	0.93
従業者数	1.00	0.99	0.84	1.14	1.13	1.20	1.13	1.06	1.12
製造品出荷額等	1.00	1.09	1.02	1.02	1.08	1.17	1.03	0.93	1.09
1事業所当たり	1.00	1.17	1.02	1.10	1.16	1.21	1.01	1.12	1.17
1従業者当たり	1.00	1.10	1.22	0.90	0.95	0.98	0.92	0.87	0.98

(資料：工業統計調査、経済センサス活動調査、経済構造実態調査)

### ③商業

- 商業統計調査及び経済センサスによると、平成28年における小売業・卸売業に関する事業所数は392事業所。
- 平成16年と比べ、事業所数、従業者数、年間商品販売額はいずれも減少している。

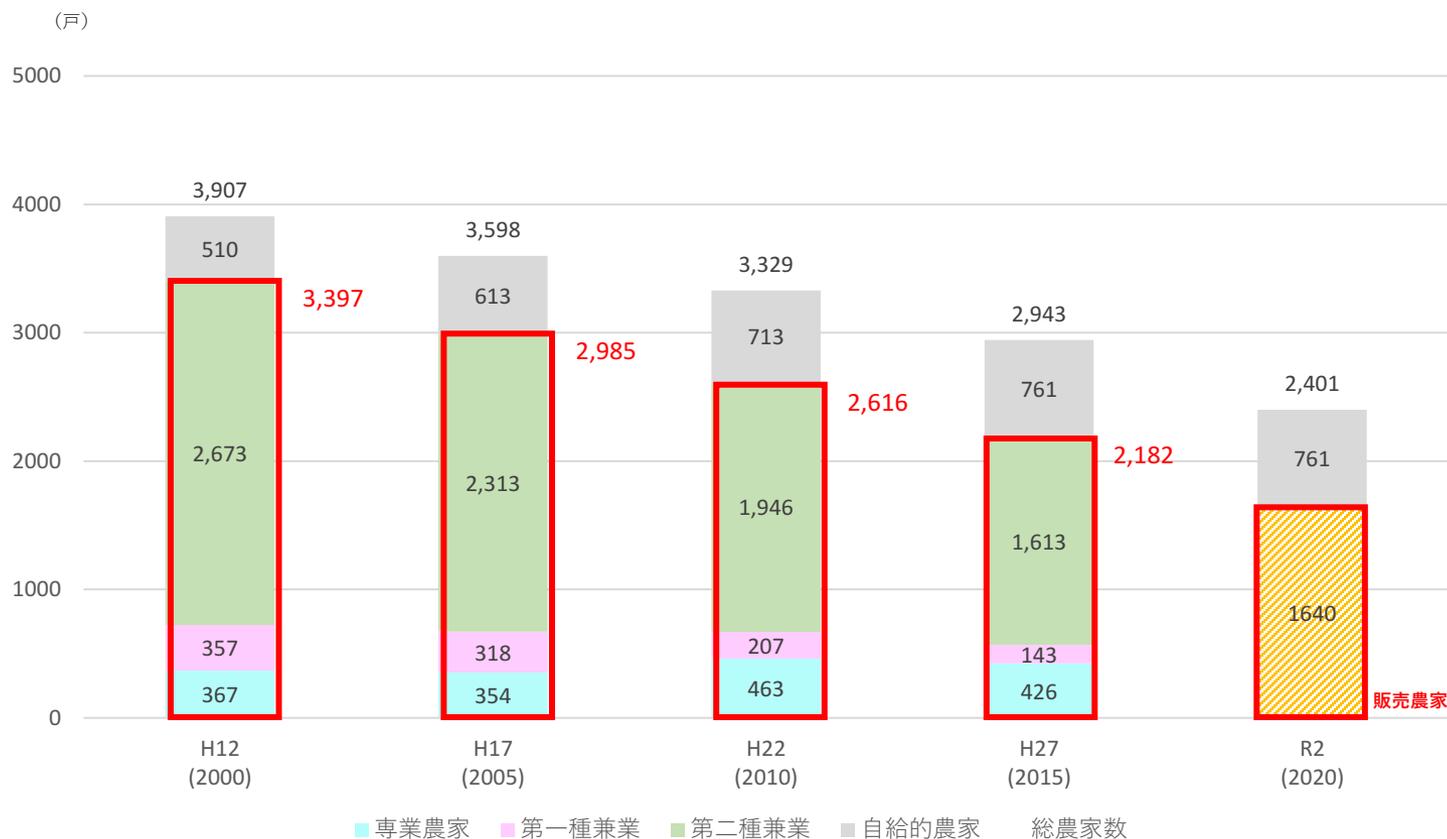


	H16 (2004)	H19 (2007)	H24 (2012)	H26 (2014)	H28 (2016)
事業所数	1.00	1.26	0.96	0.99	0.91
従業員数	1.00	1.20	0.85	0.89	0.87
年間商品販売額	1.00	0.92	0.78	0.77	0.74
1事業所当たり	1.00	0.73	0.81	0.79	0.81
1従業員当たり	1.00	0.76	0.92	0.87	0.85

(資料：商業統計調査、経済センサス活動調査)

## ④ 農業

- 農林業センサスによると令和2年の農家数は2,401戸。
- 農家数は減少傾向にあり、平成12年から令和2年の20年間で1,506戸（減少率38.5%）の減となっている。

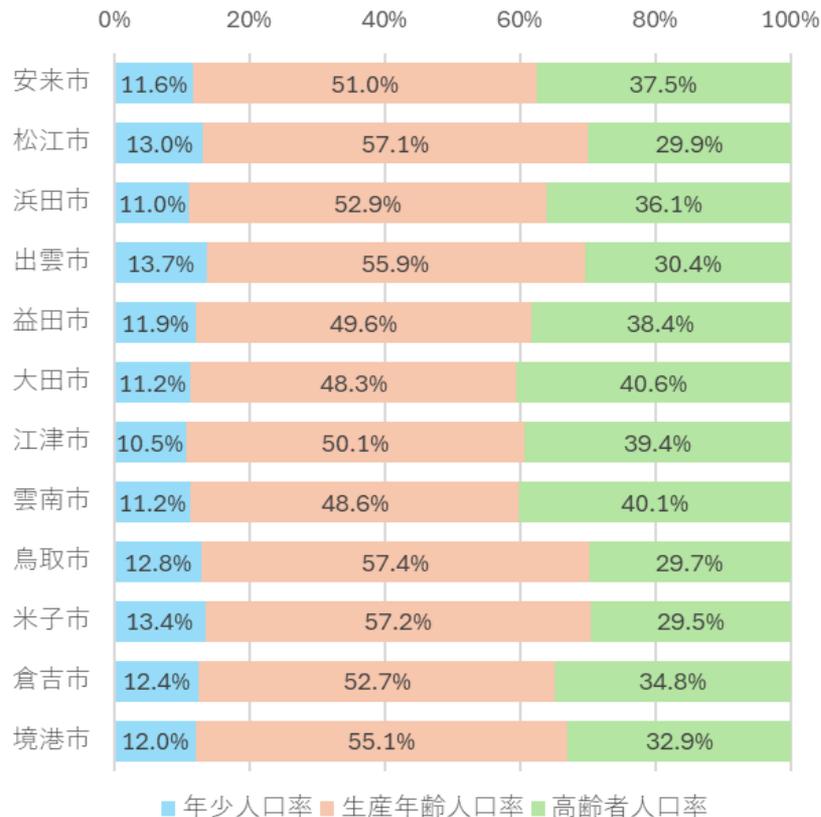


(資料：農林業センサス)

### (3) 山陰地域におけるポジショニング

## 安来市は、農業と工業が特徴のまち

- 総人口は、山陰地域の都市で8番目
- 第1次産業と第2次産業の就業者数の割合は、山陰地域の都市でNO.1
- 県内の市では、比較的高齢化率が低い（松江市、出雲市について3番目）



# 1. 安来市の現状 計画策定のための基礎調査

- 製造品出荷額は出雲市、鳥取市について3番目
- しかし、商品販売額は10番目で、人口あたりの大規模小売店舗も少なく、商業は、周辺都市に依存している傾向がみられる。
- 働き場が限定されることから、自市での就業者率も低く、昼間人口率も低い順位になっている。
- 小中学校は、1校当たりの児童、生徒数が少なく、小規模校が比較的多いと推測
- 医師の数も少なく、医療環境も比較的脆弱である。

項目	総人口		昼間人口率		製造品 出荷額等		製造業 従業員比率	
	2020		2020		2021		2022	
データ年	人				百万円		%	
単位								
1	松江市	203,616	倉吉市	1.12	出雲市	586,630	<b>安来市</b>	<b>36.1%</b>
2	鳥取市	188,465	米子市	1.04	鳥取市	297,057	雲南市	23.5%
3	出雲市	172,775	松江市	1.03	<b>安来市</b>	<b>178,859</b>	境港市	23.4%
4	米子市	147,317	鳥取市	1.03	米子市	173,141	出雲市	18.3%
5	浜田市	54,592	浜田市	1.02	松江市	139,243	大田市	17.8%
6	倉吉市	46,485	益田市	1.01	倉吉市	102,275	江津市	17.1%
7	益田市	45,003	境港市	1.00	雲南市	91,161	倉吉市	13.9%
8	<b>安来市</b>	<b>37,062</b>	大田市	0.99	境港市	89,045	鳥取市	12.6%
9	雲南市	36,007	出雲市	0.99	浜田市	65,926	益田市	12.3%
10	大田市	32,846	江津市	0.98	大田市	65,642	浜田市	10.0%
11	境港市	32,740	<b>安来市</b>	<b>0.97</b>	江津市	49,084	米子市	8.1%
12	江津市	22,959	雲南市	0.94	益田市	48,423	松江市	7.6%

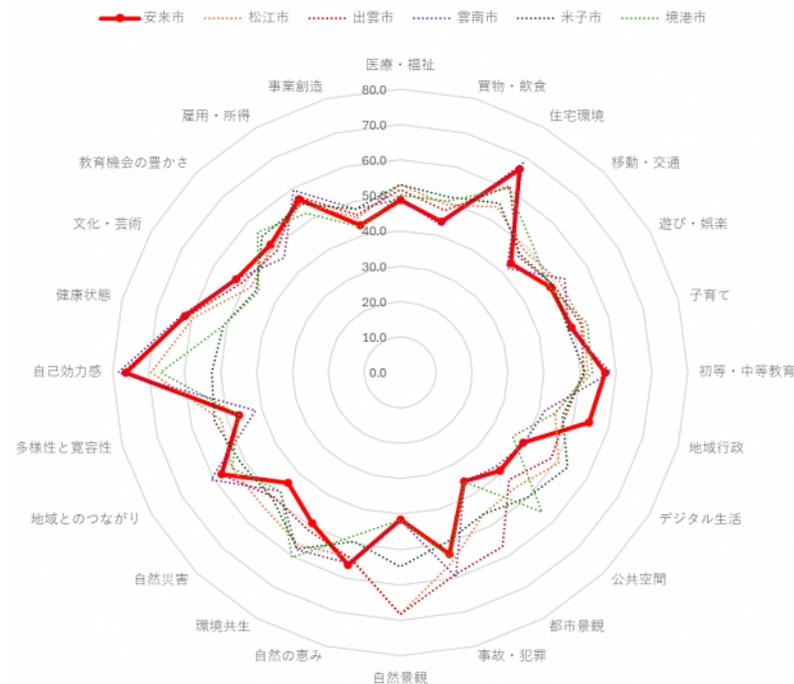
項目	商業年間 商品販売額		商業 従業員比率		人口1万人当たりの 大規模小売店舗数		自市区町村で従業して いる 就業者数率		小学校 1校当たりの生徒数		中学校 1校当たりの生徒数		人口千人当たりの 医師数	
	2020		2022		2022		2020		2022		2022		2020	
データ年	百万円		%		店舗		%		人/校		人/校		人	
単位														
1	松江市	648,010	倉吉市	9.4%	米子市	1.90	鳥取市	94.0%	米子市	341.0	米子市	318.2	米子市	6.0
2	鳥取市	452,652	境港市	9.1%	境港市	1.83	益田市	92.7%	松江市	308.3	鳥取市	301.6	出雲市	4.9
3	米子市	415,258	松江市	8.4%	松江市	1.72	浜田市	91.8%	出雲市	286.9	出雲市	300.4	倉吉市	4.1
4	出雲市	324,837	浜田市	8.2%	益田市	1.33	松江市	89.5%	境港市	272.7	松江市	291.4	松江市	3.0
5	浜田市	111,898	米子市	8.1%	倉吉市	1.29	大田市	89.4%	鳥取市	233.3	境港市	263.0	鳥取市	3.0
6	境港市	111,307	鳥取市	7.8%	鳥取市	1.27	出雲市	87.9%	倉吉市	176.2	倉吉市	230.8	浜田市	3.0
7	倉吉市	104,715	益田市	7.7%	出雲市	1.27	米子市	80.9%	浜田市	150.1	<b>安来市</b>	<b>188.6</b>	益田市	2.6
8	益田市	74,651	出雲市	7.3%	大田市	1.22	倉吉市	79.7%	益田市	144.1	浜田市	136.2	大田市	2.3
9	大田市	45,057	大田市	6.8%	浜田市	0.92	江津市	76.2%	江津市	139.6	益田市	133.0	境港市	2.1
10	<b>安来市</b>	<b>39,068</b>	江津市	6.6%	江津市	0.87	<b>安来市</b>	<b>71.0%</b>	雲南市	110.2	大田市	132.2	<b>安来市</b>	<b>1.9</b>
11	雲南市	38,185	雲南市	5.6%	雲南市	0.83	雲南市	70.6%	<b>安来市</b>	<b>102.6</b>	雲南市	131.0	江津市	1.8
12	江津市	26,916	<b>安来市</b>	<b>4.9%</b>	<b>安来市</b>	<b>0.81</b>	境港市	67.0%	大田市	95.1	江津市	122.3	雲南市	1.6

# 暮らしやすさの状況(生活環境)

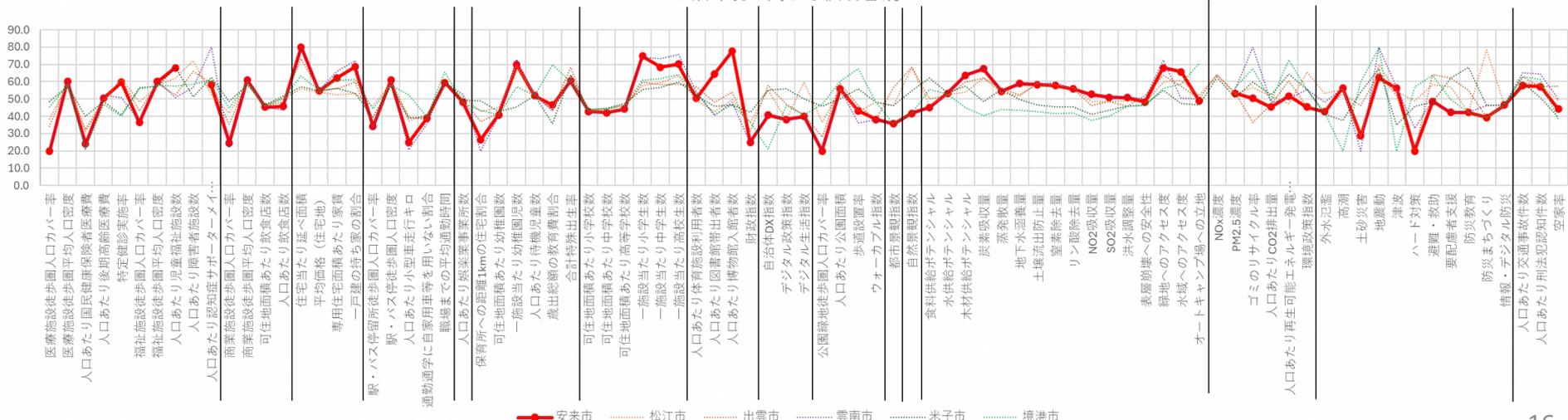
区分	指標区分
強み	住宅環境、地域行政、自然の恵みなど
弱み	医療・福祉、買い物・飲食、移動・交通、デジタル生活、公共空間、環境共生など

- 住宅の規模が大きく、一戸建て持ち家率が高い。図書帯出者や博物館入館者数が多い。
- 木材供給ポテンシャルや炭素吸収量も高い。
- 医療施設や商業施設、駅やバス停留所の徒歩圏カバー率などが総じて低い。

暮らしやすさの客観指数 カテゴリー別 偏差値



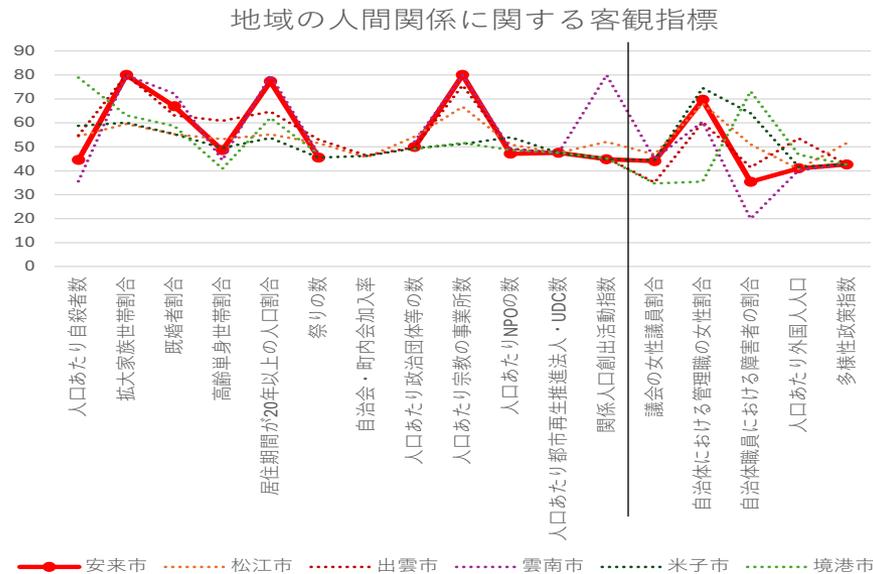
生活環境に関する個別客観



1. 安来市の現状  
計画策定のための基礎調査

## 暮らしやすさの状況(地域の人間関係)

区分	指標区分
強み	拡大家族世帯割合、長期間居住、宗教事業所数 自治体の管理職女性割合
弱み	自殺者数、祭りの数、関係人口創出活動 自治体職員における障がい者の割合



## 暮らしやすさの状況(自分らしい生き方)

区分	指標区分
強み	選挙の投票率、健康寿命、生涯学習受講者数 完全失業率、高齢者有業率、高卒者進路未定者数
弱み	大卒・院卒者の割合、創業比率、新規設立法人の割合など

